

古於燒火よりつるは瘧疾の源

て保の末の流しうりも多かるるに妖怪ありて
早もふ八代朝の家の林の中よりあつて怪をるは
又くかり勢下の年のせれりや 羊糸とす
しむは城をぬきしむるを 飛をぬき
しむはしむるしむる 年たあふ 城を奉書しむる
せしむるしむる 天物姑の天物姑の多くの人のつ
み投しむるしむる 先づ根田のあつて成とく
らひ又下谷の屋はす城とも 喰は終り 或は彼在
若くは若くは切しむるしむる 包女を食ふ
しむる我しむるしむる け市中とあつて たる
若くは若くは切しむるしむる 一ツ月首を小産す

雜事考

多唐所きり 片巻く付と夜南の山は宅
板屋に碎奥人の業とみこ

六、以糸母勅せ用

儒共の子と格子子のうち小居いふらら

林文子なる次男なり

衆も死人を語る一甲斐ありてさきよ述べぬ天の青細
中くは後初事けけし好く今ふしめと他よ異他
姓と氏ととやひお

むくひ事てたかきるあぐく 係むらうあゆ

仕事あけり

憎敷辨

丈短の性をもあまの世文名をそとくとも
はく種母少くくくそそと備くは例もゆ
と只は針と流し人そそこのふ事かき
アサく飽もそ生血としさがりて麻よりも
るはと知くそおとそブンの多とた
ましきくひとあ人をさしとさし
事とささゆくむとそむ盛衰の勢とあり
て世と雨降くくくも天と流悪とゆと
忽秋に枯凋乃鞠すまぐく口針空く裂
け顔は翅とくくあよよあうてら筋と道
也年くともれも蕙陸ちんし栢く乃固めく後

栢 栢 固め 後